

## 旧長崎税関三池支署

1800年代後半、三池炭鉱で採掘された石炭は長崎や熊本の港から上海、香港、シンガポールへと輸出されていた。1908年、三井グループが三池に自社港を開設し石炭を直接出荷するようになったことから、輸出業務を迅速に行うために新港に長崎税関の支署が設置された。

税関の建物は、寄棟造の木造平屋建て（124.4平方メートル）である。内部には受付、本庁、応接室、書庫などがある。1965年に税関業務が新庁舎に移転した後、この建物は港湾事務所として使用された。その後、民間企業に売却され倉庫となった。

大牟田市が取得した時建物は荒廃していた。2012年に可能な限り当時の部材を使用し、完全解体の上で再構築した。シャンデリアは当時のレプリカである。外観は元の白色と青色に塗り替えられている。

旧税関は福岡県指定有形文化財、またその敷地は国指定史跡となっている。土日祝日は一般公開されている。2015年には三池港の一部として世界文化遺産に登録された。